

## 協賛機関挨拶

一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 研究主幹

上田 真由美

第23回ヘルスリサーチフォーラムの協賛機関を代表して、一言、ご挨拶を申し上げます。

まずはじめに、これまで20年以上という多年にわたり、国民一人一人のクオリティー・オブ・ライフの向上に向けて、保健・医療・福祉の各分野における学際的かつ問題解決型の研究の推進に、幅広く、そして充実した研究助成を継続されてこられたファイザーヘルスリサーチ振興財団様のご貢献に対して、深く敬意を表するものでございます。また、本日の第23回ヘルスリサーチフォーラムが、「医療・介護・福祉のパラダイムシフト」という、まさに時代を先取りしたテーマのもと、大変充実した内容で開催されておりますことを、心からお喜び申し上げます。

先ほどの島谷理事長のご挨拶にもございましたように、わが国では戦後、健康で長生きできる社会づくりを実現させてきた一方で、現在、国民皆保険の達成からは半世紀以上、また、介護保険制度の創設からは15年以上が経過し、諸外国と比較しても非常に急速に少子高齢化や人口減少が進む中で、国家財政上の制約に直面しております。また、一方で、医療技術の向上や地域社会の変化など社会環境も大きく変わってきております。こうした中で、国民一人一人の一生涯を通じた健康を支える、持続可能な社会保障制度をどのように維持していくのかということが、まさに今、日本にとって最も大切な課題の一つとなっているところです。こうした課題に立ち向かっていくためには、その分野に関わる様々な立場の方々が互いに協力をして、新しい視点や価値を見い出しながら、多面的な取り組みを積み重ねていくことが、大変重要となってくると思います。特に、現場の実践を視野に入れた調査研究を着実に積み重ねていくことは、政策の方向を見定めるとともに、その具体的な実現につなげていくために、大変重要な基盤となっております。

本日のフォーラムにおいても、実態の調査分析や、制度や政策に関する研究、また、国際比較研究など、多岐にわたる研究成果が発表されているところです。こうした調査研究の蓄積が、今後のわが国におけるヘルスケアの充実に向けて大きな原動力になっていくことと考えられます。そのような点からも、ファイザーヘルスリサーチ振興財団様の活動は、現在もそして今後もますます社会的に重要なものとなり、かつ、多くの期待が寄せられているものと考えております。

さて、今回も協賛をさせていただいている私ども医療経済研究機構は、わが国における医療経済や医療・介護政策に関する研究を促進することを目的とした研究機関です。

具体的な事業としては、調査研究事業のほか、研究会・シンポジウムの開催、月刊誌・機関誌の発行といった、普及啓発事業、そして、小規模ではありますが、医療経済研究の発展と若手研究者の育成を目的として、研究助成事業などを行っています。弊機構といたしましては、微力ではありますが、今後もファイザーヘルスリサーチ振興財団様と相互に連携を図らせていただき、お互いの特色や強みを活かしながら、ヘルスケアリサーチの分野における調査研究を振興し、共に社会に貢献できればと願っております。

最後に、本日のヘルスリサーチフォーラムが、今後のわが国におけるヘルスケア研究を更に推進していく契機となりますとともに、本日ご参加された皆様方の今後の研究や、さまざまな現場での取組みの発展につながっていくことを心から祈念申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。